

JIMGAnews

第46号

平成30年度第1回部門理事会・評議員会合同会議および定時総会の開催

平成30年度第1回部門理事会・評議員会合同会議について

5月29日、経団連会館にて平成30年度第1回産業ガス部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。冒頭、間会長より昨年度の活動内容や業界を取り巻く動向等について挨拶があり、その後、評議員および理事候補者の選任の件、平成30年表彰対象者決定の件などすべての議題が全会一致で承認されました。

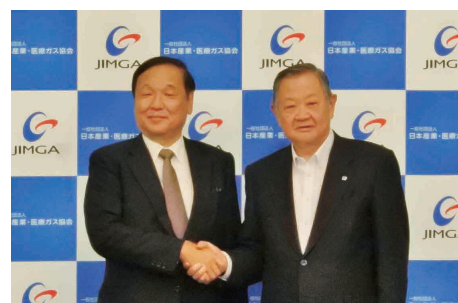
定時総会開催について

6月12日、経団連会館にて部門総会・定時総会を開催しました。午前に会長記者会見を開催し、午後はセミナー、第2回理事会、定時総会、第3回理事会および懇親会を行いました。

セミナーは矢原副会長（技術・保安部会長）の挨拶で開始し、約160名の方々が聴講されました。テーマは①「消費税軽減税率制度の説明」、②「リスクアセスメントの必要性について」、③「自主保安高度化事業者について」、④「水素スタンドプロジェクト報告」、⑤「医療用ガス容器表示指針について」、⑥「卸売販売業医薬品適正管理業務手順書の改訂」で講演が行われました。

部門総会・定時総会は会長挨拶の後、部門総会で各部門の評議員候補者の承認、定時総会で事業報告および収支決算、事業計画および予算(案)、評議員・理事選任について承認されました。表彰式では、当協会の活動に大きく貢献した個人および組織に対し、会長賞・功労賞・安全賞の表彰が行われました。また、2期4年にわたり会長を務め、当協会の発展に尽力された間邦司氏の会長退任にあたり、花束と記念品が贈呈されました。なお、定時総会後に開催された理事会において、新会長にエア・ウォーター(株)取締役副会長の今井康夫氏が選任されました。

懇親会には約340名が出席しました。今井新会長は挨拶で「JIMGAは発足より10年。今後もコンプライアンスの徹底、保安・安全を推進しつつ、地域の声をより反映して会員各社の社業繁栄につなげていきたい」と所信を述べました。来賓のご挨拶は、厚生労働省の武田医政局長、経済



今井新会長（左）と間前会長

産業省の多田製造産業局長、高圧ガス保安協会の市川会長よりいただきました。永田新副会長の乾杯の後、和やかに懇親会が進み、鈴木副会長の中締めによりすべての催しが滞りなく終了しました。

皆様のご挨拶は9月発行の「産業ガスレポート秋号」に掲載予定です。

（広報委員会事務局 石原 智子）



受賞者の皆様

JIMGA平成30年表彰受賞者一覧 <産業ガス部門>

賞区分	表彰候補者（敬称略）	表彰理由
安全賞	城南共同酸素株式会社	20年間無事故無災害を継続。東京都高圧ガス防災事業所として活動すると共に、地域防災協議会城南支部の中心となり保安講習会を企画・運営している。
	新潟高圧ガス株式会社	39年間無事故無災害を継続。自主保安の重要性を深く認識し、5S活動やKY活動を通じて、手順などの見直しを怠ることなく実施している。
	四国アセチレン工業株式会社 丸亀事業所	40年間無事故無災害を継続。毎月定例の社内安全教育を実施し社員の保安意識向上に努めるほか、顧客に対しても保安教育、安全講習会を実施している。
	貴船商事株式会社	40年間無事故無災害を継続。社内の定例会議を通じて社員への保安に対する意識付けを徹底し、高圧ガス消費者向けには年4回「貴船ニュース」を発行するなど保安の啓発活動にも積極的である。
災害 功労賞	東北地域 鳥インフルエンザ防疫活動 対応会員 ^(※)	平成28年11・12月に青森県内で発生した鳥インフルエンザ事例(2.3万羽)、平成29年3月に宮城県内で発生した鳥インフルエンザ事例(22万羽)において、容器、ガスの緊急調達を実施。劣悪な環境下、夜を徹した炭酸ガスの納入活動で殺処分完了に協力し、鳥インフルエンザの蔓延防止に大きく貢献した。
標準化 功労賞	国際部会 IHC 対応 WG 『空気液化分離装置の安全運転指針』 JIMGA 基準化委員 前田 久雄(リーダー) 豆田 武士、浅野 道、仲山 一郎	JIMGA 会員の強い要請を受け、特別チームを結成し、日本の法律や日本の実情を考慮し完成させた。基礎知識をはじめ、機器各論、保守や教育訓練について広く網羅しており、空気液化分離装置運転作業者の教科書として使用できる内容になっている。
	技術・保安部会ヘリウム技術 WG 谷口 周作(WG長)、臼井 賢司、 平野 正博、大川 邦生、井出 正明、 福永 尚玄、豆田 武士、 野村 三千昭、加藤 要、上田 智仁、 飯塚 謙之、大山 裕之	2013年発行の「液化ヘリウムの取り扱い」にヘリウムガスや安全対策を追加し、「ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取り扱い 事故事例と安全対策」として全面見直しをした。基礎データから取り扱い方法、事故事例、予防策を一貫してまとめ、業界にとって有意義な資料を完成させた。
保安教育 功労賞	関東地域本部エア・ガス技術グループ 原田 裕司(グループ長)、國分 聡、 細川 純一、長谷川 正泰、 石坂 英一、関 啓助、大西 孝好、 膳瀬 雄司、今村 清隆、舘田 英明	2009年度以降、独自企画の講習会を無償で継続開催している。様々な部門、階層の受講者に対し、産業ガスの基礎知識、保安の基礎、事故事例を中心とした分かり易い講習で、受講者は毎年70名以上である。関東地域本部の保安教育活動への貢献は大である。
	中国地域本部炭酸ガス技術 WG 青木 孝之(WG長) 小林 靖昌、石葉 光伸、 佐藤 孝、北 健太郎、小林 統	3年毎の炭酸ガス保安講習会の未開催年度に、中国地域各所で独自に「中国地域 炭酸ガス保安講習会」を開催。講習内容は法令、安全に加え地場企業の保安活動講演を組み込むなど、受講者の理解を深める工夫を凝らし、地域の保安教育活動に貢献している。
地域活動 功労賞	佐波 充 (相模アセチレン(株) 代表取締役)	前身の関東酸素工業会(1991年)より現在まで協会活動に従事。現在は関東地域本部の要職にあり産業ガス部門の運営に携わっている。また、充填保安部会長として長期停滞容器の撲滅や早期回収の推進に尽力するなど、地域活動への貢献は大である。

※青森県：(株)東酸、(株)工藤酸素店、八戸共同酸素(株) 以上3社

宮城県：(株)佐藤酸素、日本液炭(株)、東北エア・ウォーター(株)、岩谷産業(株)、高圧ガス工業(株)、エネックスジャパン(株)、カガク興商(株)、(株)小野酸素、(有)クボタ商会、(株)巴商会、(株)千代田、(株)渡辺酸素、(株)田沼酸素商会、(株)荒川七衛商店、朝日産業(株)、気仙沼酸素(株)、日酸TANAKA(株) 以上17社

安全賞：4事業所、功労賞：6件(20社+33名)

JIMGA平成30年表彰受賞者一覧 <医療ガス部門>

賞区分	表彰候補者（敬称略）	表彰理由
会長賞	715 通知改正要望検討 WG 715 講習会対応 WG 点検整備記録帳改訂 WG 大杉 隆（代表）、高澤 正樹、川西 裕治、 岡田 正、田本 孝次、中田 尚宏、前田 康男、 岡本 剛、矢野 健太郎、川谷 宗男、元田 忠麿、 長島 健一、小松 友彦、小林 和哉、木村 達也	医療ガス設備管理の「パイプ715 通知」を改正すべく5年にわたり粘り強く厚生労働省と協議を継続し、新通知「医療ガスの安全管理について」（96 通知）の発出を実現した。また、医療機関向けの講習会で新通知の周知を行うとともに、新通知を反映した点検整備記録帳を発行し、医療機関における医療ガスの安全管理に大きく貢献した。
安全賞	光酸素株式会社	39 年間無事故無災害を継続し、危険予知訓練、実機を用いた実地訓練を実施し体系的な保安教育を実践し、地域の範となっている。
	株式会社百一酸素	36 年間無事故無災害を継続し、日常業務に安全最優先の文化を浸透させ、保安教育・防災訓練を通じて自主保安を確立している。
	ツチダ産業株式会社	26 年間無事故無災害を継続し、岡山北部地区のリーダーとして保安教育を積極的に推進し、医療ガスの安全使用を啓発している。
	北島酸素株式会社 本社	50 年間無事故無災害を継続し、製造から消費までサポートするシステムを構築、医療ガス安全教育にも熱心に取り組んでいる。
	サツマガス工業株式会社	37 年間無事故無災害を継続し、代表者自ら率先して保安教育を推進するなど、地域の保安活動の範となっている。
業務功労賞	在宅酸素特別部会手引書検討チーム 河島 修一郎（WG 長） 古海 敏恵、加藤 文之、神田 修一、 大竹 清、加藤 俊康、水嶋 勝幸、 境谷 武久、中井 沙耶、五味 昌浩、 藤原 香代、一ノ瀬 真、田邊 節治、 南野 哲司、林 達男	厚生労働省の要請により災害時の在宅酸素事業者の対応手順書を作成し、在宅酸素事業者・行政等に広く頒布。またその内容を実務に浸透させるべく医療関連サービスマークの認定基準の改訂を支援しており、在宅酸素事業における災害対策の充実に貢献した。
標準化功労賞	医療ガス製造・充填部会合同 3 者取決め WG 平尾 浩二郎（WG 長）、小野 浩、 北村 一巳、長谷川 正泰、藤森 俊樹、 伊達 恒雄、西本 敬輝	医療用ガス特有の取引形態に即した JIMGA 基準を、法令改正や市場環境の変化を反映した内容に改訂。会員の適正な業務遂行に貢献した。
	医療ガス製造・充填部会合同 医療ガス医薬品ラベル表示 WG 瓦井 浩之（WG 長）、伊藤 大介、 北原 英明、杉浦 孝行、伊達 恒雄	医療用ガスの医薬品ラベルの適用品目を拡大し、厚生労働省の定めるコード体系に則った医薬品製品情報コードマニュアルを整備。会員の業務効率化に貢献した。
	既設配管停止工事施工指針改訂 WG 川西 裕治（WG 長）、岡本 剛、 水谷 紀明、川谷 宗男、長島 健一、 小松 友彦、島田 孝、大杉 隆、 高澤 正樹、小林 和哉、木村 達也	既存の基準の見直しにむけて3年にわたり細部にわたる検討を行い理解しやすい内容・表現に努め、工事の際の事故の未然防止に役立つ改訂版の発行を実現した。
	医療ガス製造部会 滅菌ガス分科会技術 WG 中田 尚宏（WG 長）、柿崎 幸一、 本村 智彰、山本 知行、芳村 健治	滅菌ガス全般にわたる豊富な知識と経験を傾け、JIMGA 自主基準に則った滅菌ガスの品質標準書を作成。滅菌ガスの品質管理の標準化に貢献した。
地域活動功労賞	藤井 基博 （藤井商事(株)）	35 年にわたり中国地域の医療ガスの業界活動をリードし、地域本部副本部長兼広島支部長として広島県との災害時協定締結に尽力した。
保安教育功労賞	上西 誠四郎 （(株)タイガーマディカルガス）	長きにわたり和歌山県下の医療機関の院内研修を支援していることに加え、同県の医療ガス安全講習会の毎年開催に尽力している。

会長賞：1件（15名）、安全賞：5事業所、功労賞：7件（45名）

会員紹介 一太陽日酸北海道株式会社一

沿革

太陽日酸北海道株式会社は、2013年に日北酸素株式会社と太陽日酸北海道支店が統合・改称した会社で、現在、道内6箇所の事業所で、各種高圧ガスの製造・販売を中心に展開しています。

太陽日酸北海道の前身である日北酸素は、1929年6月に札幌市中の島に北海道初の酸素製造工場の建設とともに創業し、1954年にアセチレンの生産を開始、1966年にLPガス容器検査所を開設しました。1967年には旭川工場を建設し、近隣工業団地へ全国初のパイピング送酸を行いました。1970年、1977年にはそれぞれ札幌市発寒に充填所、夕張市に空気液化分離装置、アセチレン製造設備を有する工場を建設。2001年に夕張市から苫小牧市の現在の地に工場を移転、空気液化分離装置、アセチレン製造設備、また充填設備では、酸素を主力とし、医療用酸素、アルゴン、混合ガス、液化炭酸の充填、容器再検査場を併設した総合充填所となっています。2003年に札幌市内の各工場を発寒に集約、現在は酸素・窒素・空気の充填所、LPガス容器検査所となっています。

太陽日酸との統合後は、苫小牧工場内に特殊材料ガスの貯蔵庫を建設、さらにエネルギー営業部を開設する等、北海道内のセパレートガス以外の分野へも事業展開を拡大するとともに、各工場の設備の充実を図っています。

保安への取組みとJIMGAとの関わり

JIMGA北海道地域本部の幹事メンバーとして、地域本部が開催する保安やMGRなどの各種セミナーには積極的に社員を参加させて知識の習得・保安意識向上に活用しております。



苫小牧工場全景

工場では、自主保安の精神を忘れることなく品質管理、保安活動、法令順守を確実に実行し、JIMGAを含めた業界および社内外の研修会等、外部からの刺激を受けることで社員の意識向上に努めています。

営業面では、顧客のガス使用に関する保安講習会を多数実施し、ガスの安定供給のみならず、常に安全にご使用いただくことを重視しています。各種セミナーで得た知識を踏まえ、安心・安全を持続的に提供し積み重ねることによって、それぞれの地域で保安活動を地道に展開してきました。

将来への展望

当社は、北海道で最も古い産業ガスメーカーであり、北海道の高圧ガス保安の歴史といっても過言ではありません。これまでの歴史を受け継ぎつつ、より効率的な事業活動ができるよう、今後も継続的な設備の改善・改良を通じ、保安レベルのさらなる向上を推進してまいります。

来年で創業90周年を迎えます。旧来から北海道地元密着で顧客ともども日々、悪戦苦闘し、その中で信頼関係を構築してきました。大陽日酸グループとなり環境は大きく変わり、社内の風土も変わりつつありますが、これまでの礎と、道内の大陽日酸グループ各社、三菱ケミカルホールディングスグループと一致団結、融合して、北海道内、各々の地域でリーダー企業としての誇りを持って、地域の発展に微力ながら貢献し、これからの新たな歴史を築いてまいります。

(大陽日酸北海道株式会社 代表取締役社長 松岡 喜義)



苫小牧工場 空気液化分離プラント

第9回THPGIAおよびJIMGA技術交流会・工場見学会

5月23日～24日、THPGIA（Taiwan High Pressure Gases Industrial Association／台湾高圧ガス産業協会）から31名が来日し、JIMGAとの技術交流会・工場見学会が開催されました。両協会の交流はJIGA時代の2006年より台湾と日本の高圧ガス製造と設備に関する技術交流を図ることを目的に始まり、今回で9回目です。

5月23日はJIMGAから5名が出席し、歓迎懇親会を行いました。JIMGAの永江専務理事より「2014年札幌開催以来4年ぶりであるが、THPGIAより、医療ガス製造工場と日本がISO基準作成をリードしたRFタグの容器管理について、技術交流の打診があり、JIMGA会員2社が快く受け入れてくれました。理解を深めビジネスに役立ててください。引き続き交流を続けていきましょう」との挨拶がありました。苗



永江専務理事の挨拶
新宿京王プラザホテル南園にて

(Myao) 理事長から、「4年ぶりの日本訪問であり、医療ガスとRFタグの日本の実情をよく学

び、台湾のガス工業会に大いに役立てたい。見学を調整してくれたJIMGAと工場見学を快諾くださった2社に心より感謝する」との返礼がありました。懇親会は台湾方式でウイスキー1L瓶での乾杯（ガンベイ）で始まり、非常に友好ムードが高まりました。

翌日は好天に恵まれ26名が工場見学に参加しました。午前中に医

療ガスの専用工場の(株)千代田 朝霞メディカルガスセンターを訪問しました。工場の担当者の説明を熱心に聞き、台湾も2014年にPIC/Sに加盟したこともあり、ガス充填設備の投資金額について等参加者より多くの質問がありました。

午後は埼玉県朝霞から一路東北自動車道を北上し、群馬県館林インター近くのアイ・テック・サービス(株)館林ガスセンターの見学を行いました。RFタグで一貫管理された工場を目の当たりにして、ここでも多くの質問があり特に、RFタグやハンディターミナルの価格については何度も質問がありました。



(株)千代田 朝霞メディカルガスセンター見学時の集合写真

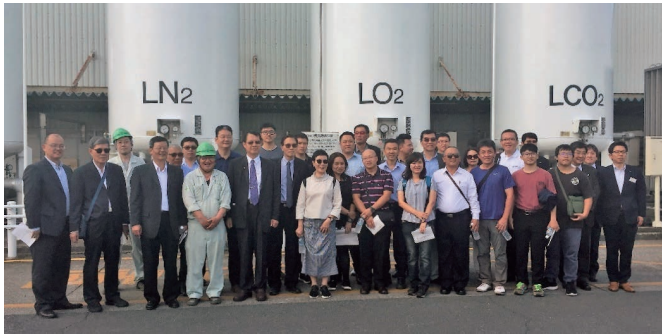


酸素の容器を持ち上げる
参加者



RFタグの説明を聞く参加者

一行は次の日から軽井沢を観光し、5月27日帰路につきました。また、見学の最中にJIMGAに対して高圧ガス保安法やRFタグ導入の利点など多くの質問が寄せられ、JIMGAで技術資料



アイ・テック・サービス(株) 館林ガスセンター
見学時の集合写真

をまとめて送付しました。

今回、THPGIA一行の見学を快く受け入れていただきました、(株)千代田朝霞メディカルガスセンター殿、ならびにアイ・テック・サービス(株) 館林ガスセンター殿に改めて御礼申し上げます。

(国際部会事務局 羽坂 智)

パリ(AFNOR)でのISO会議

2018年6月、パリのフランス規格協会 (AFNOR) で開催されたISO TC 220会議に出席しました。

気候はすでに夏を思わせる暑さで、通勤電車の中は蒸し暑く、半袖の人が多く見られました。またこの時期、テニス四大大会の一つである全仏オープンがパリで行われており、日本選手の活躍もテレビで放映されていました。

ISO TC 220は、超低温容器に関する国際規格が議論される会議で、フランス、アメリカ、ドイツ、香港、イタリア、日本（高圧ガス保安協会からJETROロンドン事務所に出向されている方も今回特別に出席されました）の6つの国と地域、そしてAFNOR事務局の総勢22名が参加し、3日間行われました。

今回の会議では、ISO 21013-4「超低温貯槽—パイロット式圧力リリーフ装置」の低温用圧力リリーフ付属品の追補を新たにWG-3で検討していくことが決定され、また設計および構造



会議の様子



AFNORオフィスビル外観

(Design and construction) を担当しているWG-1では、ISO 12291:2012「液化天然ガス (LNG) — 車載用燃料タンク」、ISO 21009-1:2008「超低温貯槽—一定置式真空断熱貯槽—第1部：設計、製造、検査及び試験」の改訂を行っていくことが決まりました。さらにISO 20421-1「超低温貯槽—大型可搬式真空断熱貯槽—第1部：設計、製作、検査及び試験」については、国連 (UN) モデル規則に引用することが提言されました。

次回は、2019年6月3日から今回同様、AFNORで開催される予定です。

(技術・保安部会事務局 徳富 栄一郎)

新事務局員の紹介



名 前：加藤 尚嗣 (かとう なおつぐ)
現住所：川崎市麻生区
出身地：神奈川県
生年月：1958年6月
略 歴：2008年4月 エア・ウォーター(株) 医療事業部 医療ガス部長
 2009年7月 エア・ウォーター(株) 医療カンパニー 医療ガス部長
 2010年4月 JIMGA医療ガス部門 常務執行役員
 2014年6月 エア・ウォーター (株) 執行役員 医療カンパニー 医療ガス事業部長
 2017年4月 エア・ウォーター (株) 上席執行役員 医療カンパニー 地域医療事業部長
 2018年6月 JIMGA専務理事

趣 味：エンターティナーだけに多種多彩です。インドア派として、トールペイントとソウルミュージックを楽しんでいます。中でもカラオケが大好きですので、皆様からのお誘いをお待ちしています。

抱 負：川崎に居を構えており、隣は由緒あるお寺で五重塔が聳え立ちます。都会の中にも自然豊かな場所、東京よみうりカントリーまで車で5分です。還暦を迎え心機一転、積極進取実践躬行を銘に、皆様のJIMGAとして滅私奉公いたしますので、何なりとお申し付けください。



名 前：岩戸 康人 (いわと やすと)
現住所：東京都板橋区
出身地：大阪府
生年月：1968年11月
略 歴：1991年 4月 大同酸素(株) 入社
 1996年 7月 大同ほくさん(株) エンジニアリング事業部
 2002年 8月 タテホ化学工業(株) 米国駐在事務所 出向
 2009年 7月 エア・ウォーター(株) 海外室
 2014年10月 神鋼エア・ウォーター・クライオプラント(株) 出向
 2018年 6月 JIMGA常務執行役員

趣 味：ゴルフが好きで、プレーするのも、観るのも、道具を物色するのも趣味といえますね。今回初めての東京単身赴任ですので、ゴルフ以外の趣味も見つけようと思っています。

抱 負：これまで主に産業系の技術、営業、事業開発を歩んできましたが、米国駐在中には日本人会や補習校の運営幹部も経験しましたので、実は事務的な仕事の方が向いているかもしれないと錯覚しています。総務、広報、企画を担当させていただきます。がんばります！